



# 今後の土木学会の活動の進め方



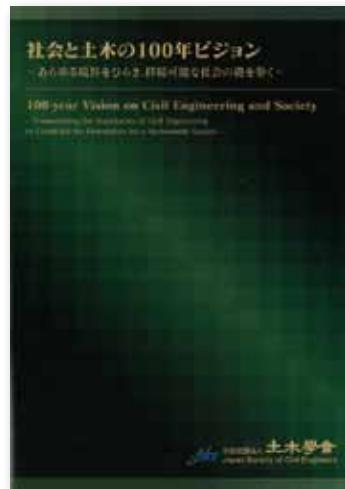
磯部 雅彦

土木学会 第102代会長

土木学会の創立100周年記念事業として、「社会と土木の100年ビジョン」および「土木学会創立100周年宣言」を昨年11月に発表しました。「100年ビジョン」は土木学会の過去100年を振り返り、将来の100年の方向性を示したもののです。そして、その核となる部分を抽出し宣言としたのが「100周年宣言」です。その目標は「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」ことです。

他方で、ほぼ同時に「JSCE 2015」を策定しました。これは土木学会の2015年から2050年間の行動計画で、今回が4回目になります。その目標は「あらゆる境界をひらき、市民生活の質向上を目指す」ことであり、「その重点課題は、原子力発電所事故を含む東日本大震災からの復興、インフラの維持・更新、地球規模の課題への対応、持続可能な都市経営・都市構造の再構築と、そのための環境整備になります。これらは、「100年ビジョン」を具体的に実現するためには、安全を確保し、地域・地球規模の環境問題を解決し、経済的活力を維持し、生活を豊かにしていかなければなりません。

土木学会の創設期は近代化の始まりで、社会基盤の充実が至上命令でした。それに加えて現在は、地球の有限性の中で持続可能な社会を実現していくこと、その基盤を築くことが求められています。これを長期的に目指すべき方向を示す、北極星のようなものと位置づけ、そのためには、安全を確保し、地域・地球規模の環境問題を解決し、経済的活力を維持し、生活を豊かにしていかなければなりません。



めの第一歩と位置づけられます。

さらに、具体的に第一歩を踏み出す活動は、まず土木学会の

若い人びとが土木学会に参加す

るようになることを願っています。

諸部門とその中にある委員会活動ということになります。加え

て、社会安全、社会貢献、市民交

流、国際交流をテーマとして行

われた100周年事業をきっかけ

として、今後も継続する活動

もあります。さらには、東日本大

震災、災害調査、国土強靭化、社

会資本の維持管理、ダイバーシ

ティ、土木広報、土木史等に関する

調査研究が会長の下で行われ

ています。これらの一連の流れ

が、100年ビジョンを実現し、

将来の社会づくりに貢献することにつながります。この理解の

下に、会員の皆さんがあれぞれ

の場においてご尽力くださることを願っています。来るべき社

会を明るいものにするという気

概と自信を持って進み、多くの

目的に賛同する会員の自発的な活動によって成り立っています。

利潤を求めて、強制力も発動しなければならない企業とは異なる面があります。会員の自発的活動がらばらなものにならず、学会組織としての大きな目的を達成す

るには、学会が方向性を示し、会員が納得して共有し、方向性を合わせて活動することが重要です。逆にそのような活動を通じ、会員の皆さんのがよき仲間と交流を深められる場を提供することができます。会員に対する土木学会の使命と意義であると考えています。

皆さんのご理解とご協力を是非お願いいたします。